くしまっ子

6人の力を結集し 県中学校秋季大会で初優勝

左から清水 創太(しみずそうた)くん(2年)　松下 結音(まつしたゆいと)くん(1年)
折田 峻丞くん(おりたしゅんすけ)(2年)　川口 凌太(かわぐちりょうた)くん(2年)
甲斐 智大(かいともひろ)くん(1年)　結城 蓮乃介(ゆうきれんのすけ)くん(2年)

串間中学校男子バレーボール部は、部員が試合に必要な人数の6人しかいない中、11月に行われた県中学校秋季大会で優勝し、新チームとして好スタートを切りました。

昨夏に全国中学校体育大会、今夏にも九州大会に出場するなど好成績を残している同チームは、2つの大会を経験してきたキャプテンを務める結城蓮乃介くん、折田峻丞くんの両エースを中心としたパワフルな攻撃が持ち味です。

夏に3年生2人が引退し、6人となったチームは、毎日の練習も難しい状況が続いています。実戦形式の練習もままならず、もちろん球拾いをしてくれる人もいません。そんな中でも「球拾いがしやすくなるように防球ネットを利用したりして、少ない人数でも効率よく練習できるように6人で色んな工夫をしながら取り組んでいる」と結城主将は話します。また、引退した3年生や卒業生たちも受験勉強や休みの合間を縫って練習を手伝ってくれているといいます。

部員不足に悩まされている一方で、少人数ゆえに一人一人の責任感や自覚、結束力はどこよりも高く、それがチームの原動力になっています。

6人の次なる目標は1月開催のJA共済杯で「ここを優勝して、夏に向けて弾みをつけたい」と結城主将。固い結束力で逆境を力に変え、勝利をつかみます。

21. 串間中学校男子バレーボール部

部員6人(2年生4人、1年生2人)。結城蓮乃介くんが主将を務める。2017年の全国中学校体育大会ベスト16。11月の県中学校秋季大会で初優勝。

地域おこし協力隊

活動日記 vol.21

「学ぶこと」をきっかけとした「参加」で地域の知恵を継承する

清山(きよやま) 美咲(みさ)さん

明けましておめでとうございます。串間市地域おこし協力隊の清山美咲です。11月18日(日)、北方地区北神社で行われたしめ縄づくりに参加させていただきました。

今回初めてしめ縄づくりを見学、体験してみて気づいたことは、一口に「しめ縄づくり」といっても、ただ藁を編んでいくという作業ではなかったということです。昔から続く知恵や一人ひとりの経験を持ち寄りながら手を動かし、しめ縄を作っていく過程はとても複雑で、一人では決して成り立たない作業です。この複雑な作業を楽しみながら進めている姿を見てコミュニティの美しさと強さを感じました。また、コミュニティに従来より備わっている「助け合う力(チーム力)」や「コミュニケーション力」「主体性」など生きる知恵も学び得ることができました。

“「学ぶこと」をきっかけとした「参加」で地域の知恵を継承する” これは私が地域おこし協力隊の取り組みの中で大切にしているテーマの1つです。しめ縄づくりに参加して実感したように、地域には、参加したり、人と関わる中でしか学べない「学びの機会」がまだたくさん残っていると考えています。

串間市に移住して2年が経ちますが、串間で暮らす毎日には常にたくさんの「学び」や「気づき」があります。この「学び」や「気づき」が自分の成長につながっていると考えると、私は串間市に育ててもらっていると言っても大げさではありません。今年も「学ぶこと」を大切に、また「学んだことを残して、次につなげていくこと」を意識しながら活動していきたいと思います。

串間のあんな人こんな人
People
ピープル

串間で活躍する人を紹介します
きらめき図鑑
kirameki

実行力で地域を元気に

動けば何かが変わる

泉町の国道220号線沿いに、カラオケ店「わいわいカラオケ」がオープンして約2カ月半。中川研児さんが代表を務める市民団体「サード・プレイス」が店を運営し、カラオケやおしゃべりを楽しむ憩いの場として、利用者の輪が徐々に広がっています。

サード・プレイスとは、自宅でも、職場でも、学校でもない、自分らしい時間を過ごすことができる「第三の居場所」を指し、身近な娯楽であるカラオケで市民の居場所を作ろうと、知人らと市民団体を立ち上げ、店を開きました。

同店は、仲間同士が個室に入って楽しむカラオケボックスとは違い、歌やおしゃべりが好きな方が同じ場所に集まり、初対面でも歌を通じて楽しい時間と空間を共有できるのが特徴です。また、趣味でバンド活動などを行ってきた中川さんが「音響にはこだわった」と話すように最高の音響機器を導入し、お客さんを迎え入れています。

利用客のほとんどは50歳以上がメインで、口コミなどで評判が広がり、常連客もいるなど客足もまずまずだといいます。「これまで地域活動をやってきて、そこで出会った方々がたくさん来てくれるのがありがたい。人とのつながりが大事だと改めて実感している」と中川さんは話します。

中川さんは11年前に滋賀県から串間市へ移住し、これまで地域活動に携わってきました。2008年には、福島川堤防沿いの桜づつみロードを整備しようと、自身が代表となり「串間元気クラブ」を設立し、約4キロにわたって植えられているソメイヨシノの剪定作業などを行ってきました。現在も、福島川沿いにある河川歴史公園と親水公園のトイレ清掃を、元気クラブメンバーが交代で月に6、7回のペースで行っています。

また2015年には、健康増進を目的に「串間市ウォーキングクラブ」を設立。串間史談会と連携して行う史跡巡りや、海岸を素足で歩くスロージョギング、管理栄養士による食事栄養講座などを取り入れながら市内各地を歩き、市民が交流できる場所を作っています。「カラオケでもウォーキングでも、これは市民の居場所作りの手段の一つ。ここから出会いや喜びを持ち帰ってほしい」と中川さんは話します。

「動けば変わる」がモットーの中川さん。「まだまだいろんなことを仕掛けて、みんなと喜びを共有していきたい」と、これからの活動にも力が入ります。

中川(なかがわ) 研児(けんじ)さん
(福島地区・東金谷)

市民団体サード・プレイス、串間元気クラブ、串間市ウォーキングクラブの代表を務める。座右の銘は「動けば変わる」。趣味は音楽。

市内各地を巡り楽しむウォーキング

わいわいカラオケの様子